

令和 2 年 6 月 17 日現在

機関番号：12604

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K02582

研究課題名(和文) 唐詩における異読の包括的研究

研究課題名(英文) Study about special vocabulary of Tang poem

研究代表者

佐藤 正光 (SATO, Masamitsu)

東京学芸大学・教育学部・教授

研究者番号：60272621

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、唐詩における特殊な語彙(異読と称する)の数的把握と具体例を翻訳することを目的とし、まず先行研究の資料目録を作成して公開した。

中国では特殊語彙に関する専門的な辞書が出版されている。中華書局編輯部編『詩詞曲語辞典』は特に優れており、そこに収録される異読の用例を摘出して翻訳し、新たな訓を付す作業を行った。『詩詞曲語辞典』所収の唐詩詞の異読約750余項目のうち、約250項目に従来見られなかった意義を加えた。また詩人の異読についてその用法を検討し7篇の論文を発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

異読の把握は、これまでの日本の学術界で重要視されながらも、包括的研究が非常に少なかったため、全体像が見えなかった。特に伝統的訓読から外れる異読の用法が多いため、訓読法による読解では誤訳が少なくなかった。本研究で新たな和訓を付したことにより、唐詩の理解がより適切に行えるようになった。また異読の用法を唐代の詩人がかなり多く用いていることを実証し、数名の詩人についてその特徴を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research is that grasping the number about special vocabulary of Tang poem (It's called "idoku") correctly and translation of these vocabulary. At first we made and exhibited a catalog of the preceding study.

In China the technical dictionary about special vocabulary was already published. "SHICIQUYUCI CIDIAN" by Zhonghua Shuju is excellent dictionary of special vocabulary. We extracted examples of "idoku" and translated. "SHICIQUYUCI CIDIAN" has about 750 items of "idoku", we added new meaning to about 250 items. And we considered directions for poet's using "idoku", published 7 papers.

研究分野：魏晋南北朝から唐代における文学発展の要因と修辞について研究

キーワード：唐詩詞 異読 訓読 語彙 解釈 口語 俗語 口語表現

1. 研究開始当初の背景

中国の唐宋から金元明時代の詩詞曲には、社会階層及び地域の言語文化や習慣によって特殊な意味を持つ語彙が散見する。その早期の研究者張相は『詩詞曲語辞匯釈』(1953)を著し、敘言に「詩詞曲には質朴で通俗的な語彙があるが、尚古思想の者には理解できない」と、近代以降に文学とみなされる詞曲のみならず正統文学とされてきた詩にも語彙の通俗性が認められること、そして詩語の多様性に対して既成の学問範疇に制約された知識人の語彙理解には限界があることを指摘している。詩の語彙に特殊な意味が存在することは、我々唐詩研究者に唐代詩人の語彙に対する深い含蓄を感得させるとともに詩読解の上で常識的な範疇からの逸脱が必要であることを認識させる。

一方で、日本では古代から漢字の字義に対応する和訓によって読み表す訓読法が創造され、その成果である『新撰字鏡』、『和名類聚抄』、『類聚名義抄』等の漢字字書の蓄積により漢字の字義に対応した数多くの和訓が蓄積されてきた。これは当然、唐詩読解の上でも重要な手段であるから、我が国において、先に述べた唐詩の通俗的な特殊語彙を認識し唐詩をより精確に読解するには、こうした語彙の和訓による読み替え(以下、異読と称する)を行って、伝統的な和訓に存在しなかった和訓を新たに付加することが最善の方法ではないかと考えた。

しかし日本では、塩見邦彦『唐詩口語の研究』(1995)、松浦友久『詩語の諸相 唐詩ノート』(1981)、松本肇・後藤秋正編『詩語のイメージ 唐詩を読むために』(2000)、後藤秋正『東西南北 杜甫の詩と詩語』(2011)等があるほか、特定の詩人における詩語、あるいは特定の詩語に関する研究は多いが、異読語彙全般に関する研究については進んでいない状況にあった。そこで、異読の整理と体系化を研究課題とするに至った。

2. 研究の目的

(1) 唐詩詞の特殊語彙(異読)について、我が国で網羅的に調査、検討した研究はこれまでにない。そこで、中国で出版された当該の関連辞書の解釈と用例の翻訳、検討により特殊語彙を整理すること、そしてその系統、来歴を分類し、特殊な語彙をいかにして詩詞人が作品に取り込み、いかなる文学的な効果を狙っていたのかを明らかにすることを目的とする。

(2) さらに、唐詩詞における特殊語彙を異読として和訓に読み替えることにより、我が国において唐詩の読解をより精確にすることを目的とする。

3. 研究の方法

本研究では、基本テキストとして中華書局編輯部編『詩詞曲語辞匯釈』(2014)を使用することにした。数名の研究者で分担して、そこに掲載されている唐詩の語彙の説明をまず各自が訳出し、年に6回から8回の研究会を開催して皆で検討して、その語彙について和訓を付すこととした。この際には『詩詞曲語辞匯釈』の他に、高文達主編『近代漢語詞典』(1992)、許少峰編『近代漢語詞典』(中華書局2008)、『全唐詩』所収の口語を解説する魏耕原『全唐詩語詞通釈』(2001)、唐詩の語彙と句法を概説する蔣紹愚『唐詩語言研究』(2008)や、研究期間中に刊行された、全唐詩詞語通釈編纂組編著『全唐詩詞語通釈』(2017)、白維国主編『近代漢語詞典』(2015)等も適宜参照した。

これと並行して、異読語彙に関する先行研究を把握するために、異読に関する資料リストを作成し、入手できる資料についてはメンバー全員で精読するようにした。さらに特定の詩人における異読用法についても、メンバー各自で検討を進めることにした。

4. 研究成果

(1) 本研究の最大の成果は、中華書局編輯部編『詩詞曲語辞匯釈』(2014)に掲載されている唐詩の語彙の訳出である。研究期間の最初二年間は、唐詩詞に限らず、掲載されている宋词や元曲まで全て訳出検討していたが、量が膨大なことから計画を変更し、先秦・漢代の詩文等も含めて唐代までの詩詞に限定して摘出することにした。そこでは解説と用例をまず訳出し、次にその語彙について和訓を付した。その上で用例を訓読して日本語に解釈し、その語彙解釈が従来の解釈よりも適切であることを検証した。この和訓への読み替えは容易ではなく、日本の古典との整合性をも考慮する必要があることを本研究の過程で認識した。この成果は、「中華書局編輯部編『詩詞曲語辞匯釈』に見る唐詩の特徴的な用法について」と題し、『東京学芸大学紀要』人文社会科学系、第67~71集に掲載してきた。これまでで、『詩詞曲語辞匯釈』所収の唐詩詞の異読約750余項のうち、約250項目を検討し終えて、和訓を付している。またこの研究成果を報告書「中華書局編輯部編『詩詞曲語辞匯釈』翻訳稿」として、東京学芸大学出版会より発行した。

(2) 先行研究の把握

日中における異読用法の先行研究を把握するために、1945年以降から現在に至るまでの資料の収集とそのリスト作成を行った。リソースとしたのは、『東洋学文献類目』、『中国文学研究文献要覧 1945 - 1977 (戦後編)』、『中国文学研究文献要覧 古典文学 1978 - 2007』、『日本中国学会報』学界展望や、中国知網のホームページ等である。唐詩詞の口語、俗語、助辞、敦煌変文の

口語に関する資料の他、日本の訓読に関する論文等も掲載した。

(3) 個別の詩人の異読用法

『詩詞曲語辞典』所収の異読語彙を検討する以外に、個別の詩人研究として異読用法の検討を行った。研究期間中は、とくに杜甫、崔顥、元稹、杜牧、寒山を対象として、彼らの作品中、解釈が分かれている語彙を取り上げ、異読によって解釈が可能かを検証した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 佐藤正光・高橋未来・有木大輔・西村諭・長谷川真史・梁旭璋	4. 巻 71
2. 論文標題 中華書局編輯部編『詩詞曲語辞辞典』に見る唐詩の特徴的な用法について（5）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東京学芸大学紀要 人文社会科学系	6. 最初と最後の頁 9-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 高橋未来・有木大輔・長谷川真史	4. 巻 25
2. 論文標題 唐詩における異読の考察 元シン[禾+眞]・杜牧・寒山を例に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 中唐文学会報	6. 最初と最後の頁 65-81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 佐藤正光・高橋未来・有木大輔・西村諭・長谷川真史	4. 巻 70
2. 論文標題 中華書局編輯部編『詩詞曲語辞辞典』に見る唐詩の特徴的な用法について（4）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東京学芸大学紀要 人文社会科学系	6. 最初と最後の頁 23 - 44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 高橋未来	4. 巻 46
2. 論文標題 杜牧「山行」詩の「坐」について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 茨城女子短期大学紀要	6. 最初と最後の頁 21-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋未来	4. 巻 24
2. 論文標題 唐詩の異読に関する資料目録	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 中唐文学会報	6. 最初と最後の頁 121-127
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤正光・高橋未来・有木大輔・西村諭	4. 巻 69
2. 論文標題 中華書局編輯部編『詩詞曲語辞辞典』に見る唐詩の特徴的な用法について(3)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東京学芸大学紀要 人文社会科学系	6. 最初と最後の頁 29-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐藤正光	4. 巻 50
2. 論文標題 杜甫の詩における異読の考察	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 学芸 国語国文学	6. 最初と最後の頁 106-113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋未来	4. 巻 50
2. 論文標題 崔顥「黄鶴楼」詩の「晴川」小考 解釈の多義性をどう授業に活かすかとの観点もあわせて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 学芸 国語国文学	6. 最初と最後の頁 149-159
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤正光・高橋未来・有木大輔・西村諭	4. 巻 68
2. 論文標題 中華書局編輯部編『詩詞曲語辞典』に見る唐詩の特徴的な用法について(2)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 東京学芸大学紀要人文社会科学系	6. 最初と最後の頁 15-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 2309/146872	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	高橋 未来 (Takahashi Miki) (30781603)	茨城女子短期大学・その他部局等・講師 (42102)	
研究分担者	長谷川 真史 (Hasegawa Masashi) (40706769)	東京学芸大学・教育学部・研究員 (12604)	
研究協力者	有木 大輔 (Ariki Daisuke)		
研究協力者	西村 諭 (Nishimura Satoshi)		
研究協力者	梁 旭璋 (Liang Xuzhang)		